

卒業式とゼミ生たち

卒業式が23日に鶴舞の公会堂で行われた。昨年の会場も公会堂であり、学部長として壇上から卒業生らを見つめた。評議員の時から6年つづけて壇上に上がっていたので、久しぶりに客席から卒業式を眺めた。客席だとリラックスできる。白鳥のセンチュリーホールに比べて狭いが、公会堂には歴史と風格が感じられる。

式はたんと進み、ちょうど1時間で終わった。壇上に座っていると時間が長く感じられたが、ゼミ生のことなど考えているうちに終わった。式で送辞を読んだのは現代社会学科3年の女子学生である。市大祭の実行委員長を務めただけあり、じつに落ち着いた堂々とした送辞であった。市大祭の頃の奮闘ぶりを思い出した。式が終わってから学部に分かれて、卒業証書の交付式が行われた。

ゼミ生の名前が呼ばれて卒業証書をもらうのを遠くから眺めていると、やはり感慨深いものがある。ことしはゼミ生に手紙と卒論発表会の写真を渡すことにした。卒業証書を受け取り席に戻る際に、すばやく渡して写真を撮った。慌てて撮ったので失敗も多く、あとから取り直した。

嬉しかったのはゼミ生から記念品をもらい、一緒に写真を撮ったことだ。記念品は上等なネクタイと立派な花束、そして心のこもった7人それぞれの「メッセージ」が添えられていた。ネクタイはすこし派手気味であるが、じつにセンスの良いものだ。ゼミ生が多数決で選んだという。要望にこたえて、さっそく夕方からのパーティでお披露目した。これでゼミの卒業生は53名となった。ゼミ生への手紙にも書いたが、多くの良きゼミ生に恵まれ、とくに今年の卒業式は感慨深いものであった。



(2007年3月25日 記)